

松 野 町

松 環 発 第 1472 号

平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 様

愛媛県北宇和郡松野町

松野町長 岡 武 男



件名 今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成 年 月 日 回答、報告、申請、依頼、通知  
対貴方文書 国企 第 号

標記につきまして、別紙のとおり提出いたします。

松 野 町

## 今後の道路行政についての意見・提案

## ①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

愛媛県松野町

今日まで、道路行政が地域の活性化に対して果たしてきた役割は計り知れないものがある。特に、住民生活に欠くことが出来ない幹線道路も、地域のニーズに呼応して道路整備は推進され、徐々に便利な道路へと生まれかわり、地域の産業、交流や日々の暮らしに非常に貢献している。最近では、公共事業の削減により、次第に地方が取り残されてきている現状にある。地方にとって、道路は生活の場そのものであり、何車線もあるような広い道路は要望しないが、地域の隅々まで通行のできる安心安全な道路を求めている。更に、少子高齢化、過疎化がますます顕著になってきている今日、保健、福祉、医療の推進においても、道路の果たす役割は、益々重要度が増している。道路網が整備されている都会に比べて、地方では一路線が命を繋ぐ道路であり、それさえもいまだ整備が立ち遅れているところがあり、地方は苦慮している。また、整備された道路においても、その道路が将来に渡って、安心安全に利用できるよう充分維持管理できる財源面の確保が課題である。大規模林道については、林業の振興はもとより、地域の活性化に貢献しており、非常に評価できるが、所在市町村に移管後、単独により維持管理をしなければならない市町村にとっては、財源の確保が困難であるので、国、県の支援を要請したい。

幹線道路に未改良区間がある上、山間部において、未整備道路が多いが、単独では事業展開ができずに、そのまま放置している状況下であり、社会資本に対する国の大きな推進力がなければなかなか整備できないのが現実である。今後の地方道路行政に対する積極的な推進、支援を要望する。

## 今後の道路行政についての意見・提案

## ②-1 地域の現状と抱える課題

愛媛県松野町

## ○現状

当町は、四国山脈西南部山塊の太平洋側斜面に開けた鬼北盆地にあり、鬼ヶ城山系や戸祇御前山系など 1000 メートル級の山岳に囲まれていて、宇和島市、鬼北町及び高知県四万十市に接する県境の町である。町の総面積は 98.50 k m<sup>2</sup>で、そのうち 84%が山林原野に占められるなど急峻な地形が多く、わずかな耕地や宅地は、主に四万十川の支流である広見川、目黒川の流域に開けている。又、本町の南部を流れる目黒川の源流部分には、足摺宇和海国立公園に指定されている滑床溪谷があり、滝や深淵、奇岩が連続する清流の美しさから、西日本有数の溪谷として評価されている。

本町の道路網の状況は、四国西南地域の大動脈として宇和島市と高知県四万十町を結ぶ国道 381 号線が町の中央部を貫通し、これに連絡する県道 6 路線が、地域の経済や産業など日常生活を支える主要幹線として機能している。これと併せて住民の生活基盤となっている町道は、19 年度末現在、341 路線総延長 149.1 km であり、改良率 62.3%、舗装率 83.0% である。

本町唯一の国道である 381 号線は、地域の生活基盤道として、地域の中で根を下ろし、通勤、通学、生活道として広く利用されている。国道 381 号線 東バイパス事業は、平成 13 年度から事業の実施であるが、地元では一日も早い完成を強く期待している。

## ○課題

道路整備事業は、以前はいくつもの活発な事業が展開され、活性化の原動力としても非常に貢献していた。しかし現在は、道路事業そのものが沈滞化、その上、道路財源の見直しが高まる中、なお、いっそう事業の制限が余儀なくされてきている。

本町の財政は厳しく、国、県の補助に頼らざるを得ない状況であり、道路関連事業は、財政の悪化や公共事業の縮減等に鑑み、極度の減少にあり、事業半ばで中断して未完了のまま放置している道路があり、何とか事業を再開して、完遂をしたいと願っているところであるが、補助事業や起債を活用しての事業においても、制約があり、脆弱な財政を圧迫することから、事業の展開を図ることが容易でない現状である。

財政状況が非常に厳しい状況ではあるが、住民の生活をおろそかにすることは許されないことでもあるし、産業面、観光振興、文化交流を図って行く上においても道路の重要性は言うまでもなく、その上、少子高齢化、過疎化が進んでいる現状を踏まえると、なおいっそう道路の大切さ、ありがたさが浮き彫りになってくる。そういう状況の中、少しでも、道路整備の推進を図って行くことが課せられた課題である。

## 今後の道路行政についての意見・提案

## ②-2 地域の目指すべき将来像

愛媛県松野町

本町では、豊かな森林資源を背景にして「森の国」というキャッチフレーズでまちづくりを推進している。町の中央部を貫流する広見川は、日本最後の清流と呼ばれる四万十川の最大級の支流のひとつであり、天然ウナギや川ガニ、アユなどの水産資源にも恵まれている。県内屈指の規模と構造を持つ中世山城の河後森城は、その保存状態が良好であったことから、平成9年に国の史跡として指定されている。

本町の主要な基幹産業は農林業である。林業を取り巻く社会情勢は依然として非常に厳しい。商工業においては、消費購買力の町外流失が続く中、商工会活動の支援やイベントの実施、企業の誘致などにより、地域経済の総合的な活性化を図って行きたい。恵まれた自然や固有の歴史文化を活用した文化施設の整備を推進し、交流人口の増大による新しい産業おこしに取り組み、その波及効果を確実にするためには、道路網の整備が重要な要素ともなってくる。国道381号線沿いに整備した虹の森公園、道の駅、地域間交流の拠点施設として今後とも活用を図って行きたい。無人駅となっていたJR予土線松丸駅の構内に整備した、「ポッポ温泉」は、新たな試みとして、指定管理者制度を導入して、安定した集客数の拡大を図って行きたい。

交流人口の大部分が日帰り観光客であるため、今後は、交流や体験を通じて自然や農村文化を楽しむ長期滞在型の余暇活動である「グリーン・ツーリズム」を、今後の地域間交流の中心的な取り組みとして発展させ、観光農園や青空市場など交流型農林業の振興により、雇用機会の創出と地域経済の活性化を図ることとしたい。虹の森公園や役場周辺で毎年開催している産業・文化祭では、文化・芸能の展示・発表、愛好会や物づくりグループ並びに各種団体による出店などによる催しが今後とも地域おこしの場として推進できるよう継続して行きたい。

スポーツ交流面においては、県内外から多くの参加を得ているまつの桃源郷マラソン大会は、来年は創設以来20周年を迎えることになるが、地域おこしの絶好の起爆剤ともなっているが、安定継続して行くためには、今後とも、安心安全なアクセス道路の整備が不可欠であり、また、四万十市や近隣市町とのスポーツを通じた交流を目的にした予土交流大会は、さらなる友好を深めて行きたいが、現在進められている国道381号線沿い高知県境付近の幅員狭小区間の道路整備促進を期待する。また、地域防災の意識が高まる中、防災の観点からも道路網の整備は非常に重要である。多くの山林を有する当町にとって、土砂災害発生危険箇所が数多くあり、危機管理上からも道路整備の必要性を改めて意識しているところであり、道路財源確保が喫緊の課題となってくる。

